

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	4572000612		
法人名	有限会社寿幸苑		
事業所名	グループホーム寿幸苑		
所在地	宮崎県児湯郡新富町新田1686番地1 (電話) 0983-33-2867		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年7月15日	評価確定日	平成20年8月29日

【情報提供票より】(平成20年6月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤6人, 非常勤3人, 常勤換算7.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄骨	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,500 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成20年6月24日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	2	要介護2	3		
要介護3	3	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 83歳	最低	72歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富養園、小村医院、いちき歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは田園風景に囲まれ、ホーム内の畑には利用者と職員の汗のたまものであろう種々の野菜が実っている。“やさしさと笑顔いっぱい、地域で暮らす寿幸苑”の理念どおりゆったりとした時間の中で利用者と職員の笑い声や笑顔があふれている。自己評価の中で述べられていた「家族と一緒に手を携えて・・・」の基本方針のもと、家族会を中心に家族の理解を得て、職員のさりげない見守りの中、利用者が自由に気ままに時を過ごしている風景がある。また、地域のホームとして福祉活動等種々の取り組みも徐々に始められている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を踏まえ話し合いや研修の機会を持ち職員全体で改善に取り組んでいる。理念を見直し、ホーム便りの発行回数を増やし、3か月ごとの介護計画の見直し、食事を楽しむ支援等、改善が図られている。入浴、外出支援については利用者が重度化する中で懸案として残っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が目的、意義を理解している。また、研修の一環として全職員が自己評価表を作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催され、ホームの状況を報告し委員と活発な意見交換が行われている。隣家の住人にも参加いただき具体的な意見(苦情)等に耳を傾けている。また、地域の中でのホームの役割について介護相談等の種々の取り組みをする事について検討されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会が組織され、徐々に活動も始まっている。苦情、意見等については全体で検討し、改善へ向け取り組んでおりその結果について家族会で公開している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地区の行事等積極的に参加し交流に努めている。また、災害対策においても消防団をはじめとした協力体制ができています。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念の見直しを行い、地域密着型サービスとしての役割を目指した新しい理念“やさしさと笑顔いっぱい、地域で暮らす寿幸苑”をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で話し合い、つくりあげた理念であり共有できている。ミーティングの場等で、理念に沿った具体的なケアについて話し合いを持ち、日々のケアに生かせるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、お祭り、保育園の運動会、勤労奉仕、飲み会等積極的に参加して交流に努めている。近隣の人が散歩されるときには声かけしてお茶に招待したりするなど、自然なお隣さんとしての付き合いが始まりつつある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員がおのおのに自己評価表を作成することで評価の意義、目的を理解し自らのケアの振り返りや反省の機会にしている。結果については全職員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。		

宮崎県新富町 グループホーム寿幸苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの状況を報告し委員の活発な意見交換が行われている。委員のメンバーに隣家の住人に入ってもらい苦情等に耳を傾けている。地域の中でのホームの役割について種々の案を行政等を交えて検討する場にもなっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者との連携はできており、連絡を密にして協働関係ができています。また、町や町社会福祉協議会主催の各会合等に積極的に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	年1回発行していた寿幸苑だよりを年4回に増やしている。利用者の暮らしぶりやエピソード等を家族へ伝達する機会が家族の来訪時に限られている。	○	利用者の日常の様子（写真等）を盛り込んだり、エピソードを加えることにより、家族にとってより身近に感じられるホームだよりを発信する取り組みを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けている。何でも言ってもらえる機会を設け、積極的に問いかけを実行している。提示された意見等については、全職員で話し合い改善に取り組んでいる。重要事項説明書に苦情相談担当者を記載された。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は多い状況であるが、職員の交替があった際は全職員で研修を実施し、管理者や他のスタッフがカバーできる体制をつくらせている。特に夜勤については当分の間2人体制で対応する等の配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には計画的に職員を参加させている。結果は職員会や復命書で報告し全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会やブロック協議会に積極的に参加している。また、職員が他のグループホームを見学できる機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前には病院や自宅を訪問して顔なじみの関係をつくったり、昼間のみホームで過ごす期間を設けるなど徐々に馴染めるよう利用者の気持ちに沿って対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者の昔話や得意話、生活の知恵の話に耳を傾けるなど和やかに生活している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向をモニタリングや寄り添うケアの中で把握している。気ままに近隣を散歩する人、畑作りを楽しむ人、草むしりをする人等職員が見守りながら利用者はそれぞれの時間を過ごしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を把握した上で、職員と意見交換を行い一人ひとりに応じた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに見直しを行っている。月1回のモニタリングの際本人の意向を把握し、必要に応じて家族や職員と話し合い計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院等の支援を行っている。遠方より来訪する家族のため寝具等の備えや重度化した利用者のため訪問看護を受け入れる体制等、状況に応じ対応をする姿勢がある。近隣の介護等の相談に応じ関係機関に紹介するなどの取り組みもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医療機関や訪問看護ステーションとの連携ができており、適切な医療を受けられる体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向によっては主治医の協力の下、看取りを行う方針ができており、職員間でもそれが共有できている。重度化の際の基本的な方針を作成し、家族へ承諾を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した言葉かけやケアができています。個人情報の管理も適切に行われています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	畑仕事、散歩等それぞれの希望に沿った事ができるように道具等を用意するなど、一人ひとりが自分のペースに合った過ごし方ができる支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理専門の職員を導入したこともあり、職員がゆとりを持って利用者と食卓を囲み食事を楽しんでいる。利用者も力に応じて食材の下ごしらえやお盆ふき等職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	車いすの利用者が多くほとんどの利用者が入浴介助が必要なため、週3回、午前、午後（3時頃まで）の時間帯を設けて入浴を支援している。	○	入浴回数や時間帯はなるべく本人のこれまでの生活習慣と希望にあわせることが望ましい。職員のローテーション等工夫して時間帯等（夕方）の改善に取り組まれることを期待したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下ごしらえ、畑仕事、草取り、カラオケ、書道等利用者の経験や知恵を発揮できる場面をつくっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	苑庭でまつり、花火大会、お花見（桜）等のレクリエーションは実施されているが、1名の散歩を日課としている人以外の利用者は戸外に出る機会が少ない。	○	外出はその人らしく暮らし続けるために必要であり地域の人々の理解と協力を得るためにも重要である。家族会、ボランティアを導入して外出する機会を設ける取り組みを望みたい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は理解されているが、はいかいのある人がいることを理由に常時施錠している。	○	鍵を掛けることを常態化するのではなく、一人ひとりの癖や傾向を把握することで鍵を掛けずにすむ取り組みを期待したい。

宮崎県新富町 グループホーム寿幸苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の防災訓練を実施し、随時場面に応じた訓練も実施している。消防団が巡回をするなど地域の協力がもらえる体制作りもできている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量はチェックし職員で共有している。一人ひとりに応じた（刻み、かくし包丁）支援がされている。食事内容を記録し利用者の嗜好、季節感を大事にし栄養バランスを考慮した献立になっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車いす利用者が多くなりろうかの狭さが気にはなるが、共用の居間は座敷やソファでおのおのが自然に決められた場所でゆっくりとくつろいでいる。また、前庭にテーブルやいすが用意され夕方はそこでゆっくり過ごす等の工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが使い慣れた物を持ち込みくつろげる居室になっている。帰宅願望の強い利用者の居室には家族の協力の下、利用者の両親の写真を飾るなどの取り組みも見られた。		

※  は、重点項目。